

校訓『**創造**』 教育目標『**自律と貢献**』～「**本気・感動・探究・継続**」～**道徳科「なりたい私」コーナーより**

2階階段踊り場に掲示

道徳の授業を終えた生徒が、ワークシートにまとめた言葉を紹介し、校舎内の道徳コーナーに掲示しています。生徒は、考えたことを、自分の言葉にして振り返り、仲間と交流することで、自分を理解したり、お互いの様々な考えから学び合ったりしています。

1年生「自分の意志で」

私は周りに流されたことがあります。自分の意見をしっかりもっているのに言えないまま、その話は通り過ぎていきました。生きていく中で絶対に人と意見がすれ違うことはあります。その時にどうするかが大切なんだと思います。

「公平とは何か」

理由をちゃんと説明したり、その立場で私はどう思うかを具体的に伝えたりしたら、不公平は解消すると思う。

2年生「問題に気づいたとき」

自分との違いを悪い方に考えるより、それを自分にはない考えだと気づくことが大切。そこで出会う新たな考えが後々、役に立つことだってあるんだとわかりました。

「自己を見つめる」

ありのままの姿の自分を好きだと言ってくれる人が必ずいるから、変に装うのではなく、ありのままの姿の自分をもっと磨くこと。

3年生「働くことの意味」

相手のことを考えて、相手にこうしたらこうだろうなという思いやりをもち、自分も相手も幸せになるためにやっていて、続けていくうちにどんどん楽しくなるものだと思う。

「ともに生きる社会」

この世に生まれた同じかけがえのない命なのだから、他の人と自分が公平に感じる世の中をつくるのが大切だと思いました。

SNSの適切な利用に向けて

学校では、生徒のSNS（ライン、インスタグラム、DM等）の適切な利用について、繰り返し、指導をしています。

トラブルになりやすいのが、ライングループ等による書き込み、インスタグラムのストーリーへの書き込みやライブ配信、スクリーンショットによる画面撮影の送受信等です。これらのことが全て良くないわけではありません。

大切なのは、これらの書き込みや、写真の送受信等が、ひとつのクリックで、発信された後、誰に、どのような影響が及ぶのかということ、よく考えて欲しいということです。

一度、インターネット上に出た情報は、二度と、消すことはできません。そして、思わぬ形となり拡散したり、悪質な利用に繋がる可能性があります。

そのために、生徒自身には、適切な利用について知り、自分で判断できるような力をつけて欲しいと思います。便利なツールであり、将来、個人で所有し、生活の一部にもなっています。中学校段階で、適切な使い方を学ぶことは、重要であると考えています。

現在のSNS（ソーシャルゲーム含む）の適切な使い方については、これまでも各ご家庭におきまして、約束やルールを決めていただいたり、不適切な書き込みや、写真等の送信は、してはいけないこととお子様とお話いただいたりしておりますが、改めて、次のようなルール作り（具体例）も参考にさせていただき、お子様と、確認していただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

各家庭でのルール作り（具体例）三次警察署の指導リーフレットより抜粋と補足

- インターネットで知り合った人と直接会わない
- 個人情報をインターネットに書き込まない
- 下着や裸の写真は撮らない、撮らせない
- 人のうわさ話や、悪口を書き込まない
- パスワードは、保護者が管理する（保護者はいつでも開くことができる）
- アプリをダウンロードする時は保護者に確認する（課金される場合があるため）
- 不審なメールや、知らない人からのメールは、必ず保護者に見せる
- リビングなどの決められた場所で使用する
- 利用時間は1日、〇時間まで（〇時以降は、保護者に返す）
- ルールが守れないのなら、使用は禁止

自分の目標や夢の実現に向けて、充実した毎日を送り、自らの進路を決定していく、大切な中学時代だからこそ、この、SNSに費やす時間や内容を、常に見直し、自律していくことをしてもらいたいと思います。

「褒めて伸ばす」スタイル サンフレッチェ広島監督

サッカーのYBCルヴァン・カップで初優勝した、サンフレッチェ広島の、ミハエル・スキッベ監督が、優勝後の記者会見で、指導スタイルについて語った新聞記事（中国新聞）を紹介します。（抜粋）

監督は、選手のミスを責めることはせず、前向きな言葉で選手の背中を押し、チームを飛躍させた。「失敗を追及するよりも『次はこうしよう』とより良いフィードバックをした方がいい」（中略）「ミスをしたことは、本人が一番分かっている。もう一度詰めることが得策とは思えない」膝の怪我で引退し、1987年に指導者に転身すると、褒めて伸ばすスタイルを実践した。

これから学校は、後期の教育活動に入ります。生徒一人一人をよく見つめ、次のステップに繋がるような働きかけをしていきます。保護者の皆様も、よろしくお願い致します。

- ・生徒が何度も挑戦し、失敗や成功体験から学び、意欲を生み出す
- ・担当教科の魅力を伝え、子どもの可能性を見つけ引き出す
- ・強みを探りお互いの強みを繋ぎ合う、子どもに光を当て輝く舞台を創出
- ・子どもに寄り添い、個性を尊重し、粘り強く向き合う、教育的な愛情
- ・積み重ねれば必ず出来るという実感を、習慣化するまで体験させる継続
- ・教職員は、子どもを社会と繋ぐ「ファシリテーター：促進者」に

キーワード～「認める」「探る」「繋ぐ」～